

2020 年度活動報告

2019 年度は休止していたこのプロジェクト、本来ならば 2020 年度よりデジタル化したデータを整理して目録等を作成しアーカイブの完成を目指すべきところであるが、従事者の山本毅の退職（2021 年度末）までに行い得ることを検討した結果、2020 年度から「音楽学部・音楽研究科 DAT 演奏記録データ抽出と保存」を先に行うことにした。DAT の再生機器もすでに製造がとまり、製造元の補修部品保有も危うくなっており、このままでは本学の DAT 録音記録を再生することが早晚困難になることが確実視されるからである（不可能にはならない。なぜなら費用を度外視してでも DAT データを有償で扱い続ける機関は少数ながら存在するはずだからである。ただし、費用は当然驚くほどの高額になる）。

4 月から山本の所有する DAT デッキを用いてまずは定期演奏会と卒業演奏会の録音データ抽出を始めたが、そのデッキがすぐに破損し再生不能になった。そこで音楽学部にある DAT デッキを調べたところ、まだ使用可能なものが 3 台あることがわかり、さっそくその内の 1 台を用いて作業を再開した。デッキは 3 台あるとはいえいずれも耐用年数を大幅に超えており、いつまで使えるかは何とも言えない。

そういう中でさらに作業を続けていこうとしたが、録音データを抽出するだけで作業が完了するなら問題ないのだが、抽出したデータを検聴して確認することが必要であり、それには非常に時間がかかる。当然のことながら山本の本業である打楽器研究の合間にしか時間がとれず、思ったようには作業が進まないもどかしさの中、新型コロナ禍に対する対応としての遠隔授業への取り組みが始まり、それに忙殺されたこともあって、結局今年度はほとんど作業を続けることができなかった。遠隔授業のための準備作業もようやく慣れてきて、2021 年度には何とか作業を再開できるのでないかと期待しているが、今のところどのくらい時間をとれるかが未知数である。前述したように、最も重要なことは抽出したデータの検聴作業であり、そのためには静かな集中できる時間が必要である。それは当然ながら本務である打楽器音楽研究のためにも最適な時間となるので、実際に作業がどのくらい進められるのかなんとも言えない。

しかし、2022 年度以降は山本が退職するので、その時はボランティアスタッフとしてでも作業を進め、少なくとも重要な録音記録についてはデータ抽出と検聴を終えて次世代の研究者に渡したいと考えている。

山本 毅（音楽学部教授）